

# 心記想伝

～あらためて問われる  
お葬式の本質とは～

私共が携わる葬祭業とは、量販店で「欲しいと思っていた商品」を衝動買いする、もしくはインターネットで「同一商品」の価格を比較検討し購入するといった、比較的日常にある光景や物欲からなるものとは相反しており、特に欲しくてたまらない商品があるわけでもなく、皆様からは出来ることなら避けて通りたいと思われるのが葬祭業の特色であると思われまます。

既にご存知の方もおられると思いますが、近年は「早く安価に終わらせる面倒のないプラン」が徐々に注目を浴び始め、悩むことも考えることも少なく、そこに依頼をされている方も多く存在するなかで、まず考えないといけないのは、お葬式の本質＝誰のためになぜお葬式をあげるのかということです。

私共が掲げている使命で「感謝で見送る葬儀を想像し提供する」こととは、決して価格を上げるのではなく、後にも先にも一度しかない大切な方のお葬式に後悔がないように、まずは亡き人を知り、家族様との心の交流を図ることから始まるといっても過言ではありません。100人いれば100



通りの人生があり、独り身の方もいれば、多くの家族に囲まれて過ごしている方もいて、物事の考え方や価値観も多様にあるのはもちろんですが、人生の集大成ともいわれるお葬式においては「〇〇円均一」といった基準値ではなく、小規模であっても「大切な方への最期のプレゼント」を創造し、ご縁を継承でき価値あるひと時を過ごすことができた・・・そう思っただけの後悔のないお葬式の本質を、少しでも地域に広めることができると考えております。

# 編集ごぼれ話

ご無沙汰しております、編集長です。暑かった夏が終わり、あっという間に寒い季節がやってきましたが、皆様体調崩したりしてませんか？

おかげさまで今月号でかわら版99号になりました！

「かわら版をみて電話しました」「かわら版を楽しみにしています」といった皆様の温かいお声のおかげでここまで来たなとしみじみ感じております。

以前、「かわら版のこの記事を読んでもっと知りたいと思って来ました」と来館された方がおり、かわら版がお客様とドリーマーを繋ぐ架け橋になってくれたのだととても嬉しく思いました。

皆様の日々のちょっとしたリフレッシュにドリーマーかわら版、いかがでしょうか。

(いまむら)



# お葬儀 なぜなに解決コーナー

お香典の正しい入れ方・包み方



3つのポイント

## 1. 新札は避ける

新札は基本的に予定が決まっているおめでたい行事に包むもので、香典に包むことは故人のご不幸を予期していたように思われます。

もし、手元に新札しかない場合は、1回折るようにして包むのが無難です。

3つのポイント

## 2. お札の枚数

弔事において理想的な数字は奇数、1・3・5枚とされています。

偶数は割り切れる数字なので、故人様とご遺族の縁が切れるという意味で縁起が悪いためです。ほかにも4枚や9枚は「死」「苦」を連想させる忌み数とされています。

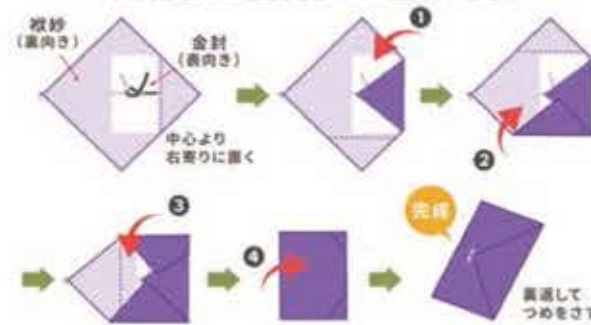
3つのポイント

## 3. お札の向き

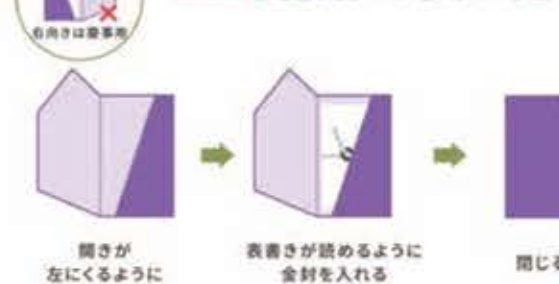
お札を香典袋や中袋に入れる場合は、お札の向きにも注意が必要です。

香典を包む場合はまず、人物の肖像が印字されている方を伏せて、裏面が上になるようにしたうえで、肖像が印字されている側が底の方にくるようにします。複数枚ある場合は、向きが同じになるように心がけましょう。

### 爪付き袱紗の包み方



### 金封袱紗の使い方



香典を葬儀会場まで持参する際は、むき出しの状態ではなく、袱紗（ふくさ）と呼ばれる包みを使用するのがマナーです。香典袋を袱紗に入れることで、水引を崩さず渡せること、葬儀や法要を重んじる気持ちを表すことができます。

袱紗は冠婚葬祭に応じて使うべき色が決められており、弔事では紫色や暗色系のものを使うのがよいとされています。

金状袱紗とは、入れやすいようにポケットタイプになっているものです。ハンドバックや胸ポケットに入れても形が崩れないことが特徴です。しかし、あくまで「簡易的な袱紗」の位置付けなので、年齢に合わせて台付き袱紗に買い直す方もいるようです。

この機会にぜひ、お手持ちの袱紗を確認してみてください！

(御香典の入れ忘れには要注意！)



たかむら